八重山育ち

本調子

工	
四	
上	
中	
工	
五	
工	
四	
上	
五	
工	
四	

上	やえのしおじにかこまれ
○	
上	
四	
上	
○	
上	
尺	
工	
○	
工	
七	

五	みどりのしまじまて
○	
五	
七	
五	
○	
上	
○	
上	
尺	
工	
五	

中	うたのしまはとま
○	
上	
四	
上	
五	
工	
四	
上	
尺	
五	
尺	

工	なかもりはりぬぶり
中	
上	
○	
上	
○	
七	
五	
工	
○	
工	
中	

上	くばのはかげでやれややま
四	
乙	
○	
四	
中	
上	
四	
上	
中	
工	
○	

上	そだち
四	
上	
五	
工	
四	
上	
中	
工	
五	
工	
四	

上
五
工
四
上

八重山育ち

本調子

一、八重の潮路に囲まれて
緑の島々歌の島
鳩間仲森走り登り
クバの葉陰で
ヤレ　八重山育ち

白雲たなびく於茂登岳
清き流れの宮良川
尽きぬ情けの花の島
「綾羽ば生らしょうり　びる羽ば産
だしょうり　」
歌と踊りの
ヤレ　八重山育ち

二、田草取るなら紅たすき
燃ゆる想いを色に染め
ユンタ・ジラバで語りゃんせ
いとしクヤマも
ヤレ　八重山育ち

人魚の踊る新城島
越ぬ端の物語
世果報を迎える巻踊り
「庭や雪降ゆい梅や花咲ちゅい　無
蔵が懐や真南風ど吹ちゅる」
昔ゆかしき
ヤレ　八重山育ち

三、古見の浦浜来てみれば
昔なつかしブナレーマ
沖の黒潮眼にしみる
船浮カマドマ
ヤレ　八重山育ち

星影暗き夜半時
恋の細道トゥバラーマ
せつない想いに
身を焦がす
「君と二人で通ようた小路　今じゃ
イバラが縺（もつ）れて咲くよ」
可愛い美童（みやらび）
ヤレ　八重山育ち

四、
口説ばやしにひかされて
花の黒島来てみれば
島の乙女の純情に
粟酒のんで
ヤレ　八重山育ち

南の果ての波照間に
歴史を綾取る人々が
島を守りの神々　に　心合わせて
ヤレ　八重山育ち

月夜の浜の荒磯で
鳴くや千鳥の恋の歌
出船悲しや　ションカネ
情あふるる
ヤレ　八重山育ち